

コード	202010401
記入日:	H22.6.11

## 事務事業途中評価表

課コード	119
課名	建築課
課長名	法村栄三
担当者	戸村貴樹

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	街なみ環境整備事業
----------	-----------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 16 年度 ~ 平成 25 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け			
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	8		
施策コード	202	施策名称	快適な生活環境づくり	項コード	6		
基本事業コード	20201	基本事業名称	快適な住宅環境の整備	目コード	2		
事務事業コード	2020104	事務事業名称	国庫補助事業費(住宅)	細目コード	628		
関連計画		法令・条例規則等	街なみ環境整備事業制度要綱				

**計画(PLAN)** ※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標					
(対象1)	地区住民(H21.4.1末)	(対象指標1)	178人				
(対象2)		(対象指標2)					
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
通路の新設(1路線)153m、通路の美装化(5路線)342m、小公園の整備(2箇所)359㎡、緑地整備(1箇所)2,560㎡、交流センター1棟、交流センター(造成)2,450㎡	交流センター1棟(船崎地区)、交流センター(造成)158㎡	① 全体事業進捗率	66.9%	100%	累積事業費/全体事業費	平成25年度	
		当該年度事業進捗率	19.5%	100%		平成21年度	
		(達成率分析)	計画目標通り達成できた。				
		② *****	*****	*****	*****	*****	
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
船崎地区は、遣唐使の時代、中国から饅頭(うどん)の製法が伝えられた地区であり現在でも手延べ饅頭が作られている。我が国の饅頭発祥の地と言われ生きた歴史資源とも言うべき地区である。しかし、離島の小集落であることから高齢化と過疎化が進み、そう遠くない将来、集落の存亡が危惧されている。また、集落内に網の目状に張り巡らされた幅1~2mの通路は整備が整っていないため高齢者の通行に支障を来している。そのため、通路は自然素材を用いた透水性景観舗装を行い、石積みを残し素朴な集落全体の景観の保全・改善を図り、公園、広場、緑地を整備し、地区住民の憩い・ふれあいの場を確保して次世代を見越した居住環境の向上を目的とする。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		① 交流センター利用者数	*****	*****	年間利用者数/目標利用者数	平成25年度	
		*****	*****	*****		*****	
		(達成率分析)	事業未完了のため、事後評価で達成率を算出する。				
② *****	*****	*****	*****	*****			

**実施(DO)** ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① %	100%	66.9%	47.5%	19.4%	19.4%	8.3%	8.3%	8.3%	8.2%	
	②										
成果指標	① 人	1,500									1500
	②										
総事業費C(A+B)	千円	285,447	197,721	139,827	57,970	57,894	21,950	21,900	21,900	21,900	
直接事業費A	千円	252,547	170,421	118,827	51,670	51,594	20,550	20,500	20,500	20,500	
人件費B	千円	32,900	27,300	21,000	6,300	6,300	1,400	1,400	1,400	1,400	
内訳	従事職員数	人	4.7	3.9	3.0	0.9	0.9	0.2	0.2	0.2	0.2
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円	118,098	78,098	53,098	25,000	25,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	県補助金	千円									
	起債	千円	125,900	86,300	62,400	23,900	23,900	9,900	9,900	9,900	9,900
	その他	千円									
一般財源	千円	41,449	33,323	24,329	9,070	8,994	2,050	2,000	2,000	2,000	

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 歴史的な船崎鯔鈍の里として整備は必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 素朴な集落全体の景観を残しながらも、次世代の人が住みたくなるような住環境の整備が必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由 地元住民の生活向上と併せて景観を整備するため適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由 現在、整備されている「小公園」は付近住民の憩い・ふれあいの場としての機能を発揮し、「通路の新設」として整備された延長153mの車両用通路は地区住民の生活向上に寄与している。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由 計画とおりに事業は進捗しており、向上の余地はない。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由 交流センターの建設により、地区集会の場としてはもとより「船崎うどん」づくりの研究や後継者育成としての技術伝承の場として多いに期待されている。
	類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由 類似事業は存在しない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由 現設計は最小の経費で最大の効果を発揮する設計となつてはいるが、通路・小公園毎に計画の一部を見直すことで経費削減に努めたい。
	人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由 最小限の人員であり、事業を推進する上でできない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由 受益者負担は発生しない。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現計画において「通路」「小公園」は整備箇所が複数であるため、地元協議等にて必要性を再検討し、整備箇所数の削減を図る。
		有効性	町と地区住民とで「船崎郷まちづくり協定」を結び、地元地区との協議の上で景観整備や生活向上を図っている。
		効率性	要最小限の人員にて対応しているため人件費の削減はできない。
		課題に向けた改善策	特になし
	2次評価	妥当性	住民の住環境整備のためにも妥当である。
		有効性	交流センターの利活用で「船崎うどん」の伝承や観光に期待が図れる。地域との連携を蜜に有効な活用に努めること。
		効率性	町なみ環境整備事業の進捗にあわせ事業費の適正な執行を図ること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
				このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
	●	●		事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。